

報道関係各位

株式会社アクティブアンドカンパニー

奨学金利用者の 76.3%が 「学生のうちにお金の知識を知っておきたかった」

社会人になる前の不安も「お金」が最多の 66.3%、受けた研修テーマでも 1 位

奨学金返還支援サービス「奨学金バンク」を提供する株式会社アクティブ アンド カンパニー（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：大野 順也、以下 AAC）は、このたび、奨学金を利用した経験がある 99 名を対象に、学生時代の価値観や社会人になる前の不安、受けた研修テーマなどに関するアンケート調査を実施しました。

調査の結果、76.3%が「学生のうちにお金の知識を知っておきたかった」と回答。また、社会人になる前の不安についても「お金」が 66.3%で最多となり、研修で受けたテーマについても「お金・資産形成」が 66.3%で最多となりました。奨学金を利用して進学した経験を持つ人の多くが、学生から社会人への移行期において、「お金」に関する知識や情報を必要としていたことがうかがえる結果となりました。

▼調査結果のポイント

- ・ 学生のうちに知っておきたかったことの 1 位は「お金の知識」（76.3%）。「キャリアの描き方」（53.6%）を大きく上回る結果に
- ・ 社会人になる前の不安も「お金」が 66.3%で最多。「仕事の進め方」（46.9%）、「コミュニケーション」（36.7%）が続く
- ・ 研修で受けたテーマも「お金・資産形成」が 66.3%で 1 位。「コミュニケーション／人間関係」（28.6%）、「IT・DX スキル」（21.4%）を上回る
- ・ 自分に当てはまるものは「自立心が強い」（53.5%）が最多。「成長意欲が高い」（45.5%）、「努力家」（44.4%）が続く
- ・ 社会人になって驚いたことは「コミュニケーションに“正しさ”より配慮が必要」（43.7%）、「努力より結果や再現性が求められる」（40.8%）が上位に

▼調査結果詳細

1. 「知っておきたかった」「不安」「学びたい」のすべてで「お金」が 1 位

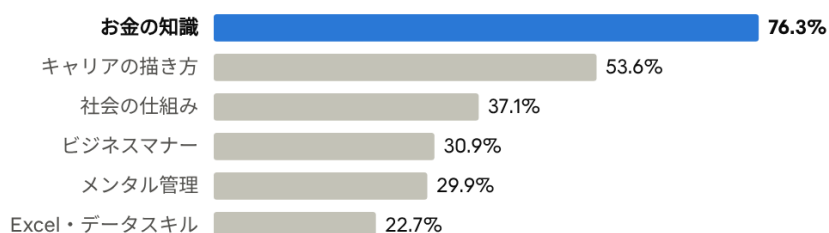
「学生のうちに知っておきたかったこと」「社会人になる前の不安」「研修で受けたテーマ」の 3 項目について尋ねたところ、いずれも「お金」に関する項目が 1 位となりました。特に、「学生のうちに知っておきたかったこと」では「お金の知識」が 76.3%、「社会人になる前の不安」では「お金」が 66.3%、「研修で受けたテーマ」では「お金・資産形成」が 66.3%となりました。

学生から社会人への移行期において、お金に関する知識を身につけたい、あるいは身につけておきたかったというニーズが高いことがうかがえます。

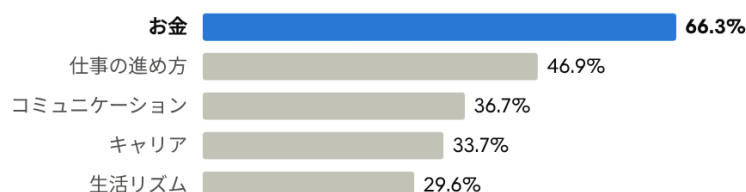
3つの設問すべてで「お金」が1位

奨学金利用者 回答者比 (%)

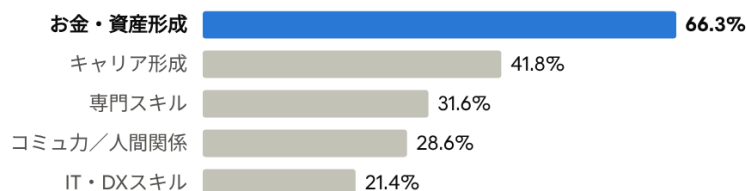
学生のうちに知っておきたかったこと (複数回答・n=97)



社会人になる前に特に不安なこと (複数回答・n=98)



研修で特に受けたいテーマ (最大2つ・n=98)



出典：奨学金バンク 奨学金利用者アンケート (2026年2~9月、奨学金利用者 99名)

2. 自分に当てはまるもの：「自立心が強い」が過半数

自分自身に当てはまるものを最大3つまで尋ねたところ、「自立心が強い」が53.5%で最も多く、「成長意欲が高い」(45.5%)、「努力家」(44.4%)が続きました。

奨学金利用者の半数以上が「自立心が強い」と回答しており、経済的な負担を伴いながらも、自身の進学や将来に向けた選択を行ってきた人が多いことがうかがえます。

項目 (最大3つ・n=99)	割合
自立心が強い	53.5%
成長意欲が高い	45.5%
努力家	44.4%
社会貢献意識	19.2%
計画性がある	16.2%

3. 働くうえで重視する価値観：「給与」「やりがい」「安定」「ワークライフバランス」が拮抗

働くうえで最も重視する価値観を1つ選択してもらったところ、「給与」が25.3%で最も多く、「やりがい」(23.2%)、「安定」(20.2%)、「ワークライフバランス」(20.2%)が続きました。

給与だけでなく、仕事のやりがいや安定、生活との両立など、働くうえで重視する価値観が分散していることが分かりました。

価値観 (1つ・n=99)	割合
給与	25.3%
やりがい	23.2%
安定	20.2%
ワークライフバランス	20.2%
挑戦	6.1%
成長	5.1%

4. 社会人になって驚いたこと：「正しさより配慮」「努力より結果」

社会人になってから「驚いたこと」を尋ねたところ、「コミュニケーションに『正しさ』より配慮が必要なこと」が43.7%で最も多く、「努力より結果や再現性が求められること」(40.8%)、「正解がなくても判断や行動が求められること」(38.0%)が続きました。

学生時代とは異なり、社会人になると、正解のある知識だけでなく、相手や状況に応じた判断、成果につながる行動が求められることに戸惑った経験がうかがえます。

項目 (最大3つ・n=71)	割合
コミュニケーションに“正しさ”より配慮が必要なこと	43.7%
努力より結果や再現性が求められること	40.8%
正解がなくても判断や行動が求められること	38.0%
完璧より提出が早い方が評価されること	32.4%
時間や約束が信用に直結すること	21.1%
仕事は個人戦ではなくチーム戦であること	19.7%

※選択肢から1つ以上回答した71名が母数。「学生のため」「特になし」等の回答は除外。

5. 自由記述：奨学金を借りてまで進学に挑戦した理由

奨学金を借りて進学した理由について自由記述で回答した72名の内容を分類したところ、「学びたい分野・専門性を身につけたい」が26.4%で最も多く、「将来の選択肢・収入・安定のため」(18.1%)、「なりたい職業・取りたい資格があった」(16.7%)が続きました。「学びたい分野・専門性を身につけたい」「将来の選択肢・収入・安定のため」「なりたい職業・取りたい資格があった」を合わせると、将来の学びやキャリアを見据えた理由が61.2%を占めています。

一方、「進学が当たり前・親や周囲の意向」(20.8%)など、本人の意思だけではなく、周囲の環境が進学の背景となっていた回答も見られました。

分類 (n=72・当社分類)	人数	割合
学びたい分野・専門性を身につけたい	19	26.4%
進学が当たり前・親や周囲の意向	15	20.8%
将来の選択肢・収入・安定のため	13	18.1%
なりたい職業・取りたい資格があった	12	16.7%
特に理由はない・社会に出るまでの猶予	7	9.7%
自立したい・環境を変えたい	6	8.3%

主な回答（原文のまま）

- 「どうしても養護教諭になりたい夢があり、近くで通えるのが私立の大学のみだったため奨学金を借りて進学しました。」（教育・私立）
- 「食べていける国家資格が欲しかったが、経済的に余裕がなかった。それでも年齢的に早く資格が欲しかったので奨学金を借りました」（医歯薬・私立）
- 「高校時代将来やりたいことが何もない状況で、先が見えず不安を抱えていました。だからこそ視野を広げるためにも自分のやりたいことを探せる時間、探すための知識をふやすためにも大学に通おうと思いました。」（文系・私立）
- 「返済の不安はあったが、長い目で見たら借りて進学したほうが収入が高くなると思ったから。」（医歯薬・公立）
- 「コロナ禍で海外の研修や留学をすることが出来なかったため、大学進学後は絶対に留学したいという目標があった。」（情報系・私立）
- 「大学は行くものだという考えでしたので、軽い気持ちで奨学金を借りました。」（文系・私立）
- 「社会人になるまでに猶予がほしかった。有意義な大学生活を送れたので、奨学金を借りてよかったと思っている。」（文系・私立）

▼調査概要

調査名称： 奨学金利用者の進路・価値観・キャリア形成に関する実態調査

調査対象： 奨学金利用者

有効回答数： 99 名

調査期間： 2026 年 2 月 13 日～9 月 30 日

調査方法： インターネットによるアンケート調査

調査主体： 株式会社アクティブ アンド カンパニー

※設問によって回答者数が異なります。

※複数回答の設問は、回答割合の合計が 100%を超える場合があります。

※「奨学金を借りてまで進学した理由」は自由記述回答を AAC が内容に基づき分類したものです。

▼「奨学金バンク」サービスサイト <https://shogakukinbank.jp/>

「奨学金バンク」とは、日本初の奨学金返還を支援するプラットフォームです。奨学金の返還負担を減らすことで、起業・キャリアチェンジ、結婚・出産など、積極的なチャレンジやライフステージの変化に前向きな環境を構築し、持続可能な就学・就職サイクルを作るためにサービスを展開しております。

【株式会社アクティブ アンド カンパニーについて】

会社名：株式会社アクティブ アンド カンパニー

所在地：東京都千代田区九段南 3-8-11 飛栄九段ビル 5 階

代表者：代表取締役社長 大野 順也

設立年：2006 年 1 月 5 日

資本金：1 億 849 万円（資本準備金 1 億 4,155 万円）

主事業：組織活性化コンサルティング業（組織・人事コンサルティング業）、クラウドサービス事業

URL：<http://www.aand.co.jp/>

本件に関するお問合せ先

株式会社アクティブ アンド カンパニー 事業推進部 広報担当／関口

TEL／03-6231-9505 e-mail／aac-pr@aand.co.jp